

第 28 回全国高等学校柔道選手権大会

3月21日(火)、第28回全国高等学校柔道選手権大会が東京・日本武道館で開催された。
昨年までの男子個人選手権(体重無差別)試合及び女子体重別選手権試合がなくなり、従来通りの男子5人制勝ち抜き団体試合と、新たに女子3人制体重別団体試合が行われた。

【男子寸評 全柔連男子強化コーチ 岡田弘隆】

本命不在で混戦が予想された今大会、優勝候補にあげられたのは昨年優勝の桐蔭学園(神奈川)、2位の埼玉栄の他、国土館(東京)、世田谷学園(東京)、大成(愛知)、東海大相模(神奈川)などであった。
この内、桐蔭学園が初戦の2回戦で甲陵(鹿児島)に敗れる波瀾があり早々に姿を消したが、他の有力校は順当にベスト8に勝ち上がった。ベスト8には他に、昨年3位の東海大浦安(千葉)、小杉(富山)、國學院栃木(栃木)が勝ち上がった。

準決勝は、東海大浦安を破った小杉と國學院栃木を下した世田谷学園。
もう1つは、大接戦の末に代表戦で国土館を退けた大成と埼玉栄に勝った東海大相模の対戦となった。
小杉対世田谷学園戦は、世田谷学園が大野、海老沼等軽量選手の活躍で小杉を圧倒した。
大成対東海大相模戦は、序盤、大成が巨漢加藤の活躍でリード。東海大相模は大将の1年生エース吉田が2人を抜き返し、大成のエース武田との大将対決に持ち込んだ。
しかし、ここで武田が勝ち、大成が初の決勝進出を果たした。

決勝、先鋒戦引き分けの後、世田谷学園は次鋒の金子が加藤、富田を抜いて一気に有利な展開となる。
その金子を大成副将の吉井が抜き返すが、続く世田谷学園中堅の海老沼がその吉井に鮮やかな袖釣込腰で「一本」勝ちし、大将の武田を引っ張り出す。
後のない武田は必死で攻め、「指導」1で何とか海老沼に勝って副将の甲斐との対戦に持ち込む。
序盤、甲斐が大内返で「技あり」を奪って有利に試合を進める。
武田が挽回しようと必死で攻めるが甲斐の受けが強く、最後は力尽きて、甲斐が隅落で「一本」勝ち。
世田谷学園が3年ぶり10回目の優勝を果たした。

今大会では、最優秀選手にも選ばれた海老沼(世田谷学園1年・73kg)をはじめ、優秀選手に選ばれた武田(大成2年・78kg)、海老(小杉2年・80kg)、吉田(東海大相模1年・90kg)等、重量級以外の選手の活躍が目立った。
彼等は重量級の選手を相手に、切れのある技とスピード、気迫溢れる柔道で体重のハンディを克服し、無差別の醍醐味を堪能させてくれた。

最後に、今後の高校選手権のあり方について提案したい。
現在、インターハイでは無差別の団体試合及び体重別個人試合、金鷲旗大会では無差別の勝ち抜き団体試合が行われている。
この高校選手権では、是非、体重別団体試合と昨年まで行われていた個人選手権(体重無差別)試合を行っていただきたい。

【女子寸評 全柔連教育普及委員 田辺陽子】

女子は今大会より団体戦(点取り)の形式で行われた。

3人制での団体戦ということで、効果1つでも取れば勝敗が動く、気が抜けない緊張感を必要とされる難しさがある大会であった。

その中で、三田松聖(兵庫県)が初代チャンピオンに輝いた。

(兵庫) 三田松聖高等学校 (内容) 1 (東京) 渋谷教育学園渋谷高等学校

先鋒 安達 美奈代 - 中村 美里

ポイントゲッターである中村は小外刈、背負投、寝技を使い試合を進め相手を追い込んだ。

試合の後半に中村は相手から指導1を取った。

中堅 浜田 愛翔 - 渡辺 華奈

大内刈、内股を得意としている渡辺がよく攻め、内股で何度も跳ね上げる場面があったが、浜田がよくしのぎ引き分けにもっていった。

大将 市橋 寿々華 - 穴戸 清恵

後のない市橋は積極的な組み手からよく攻め、得意技の払腰で相手を追い込み、後半、相手の頭が下がったところで払腰(技あり)を取り、そのまま寝技に入り合わせ技一本勝ち。

決勝戦では、優勝候補筆頭である渋谷教育学園渋谷が(先鋒)中村の勢いそのまま中堅で勝負が決まるかと思われた。

一方、三田松聖は(先鋒)安達が試合の4週間前ひじを脱臼、(大将)市橋は3週間前肉離れなどで、万全な状態ではなかった。

岡崎祐史監督は一回戦から選手の動きが鈍く立ち上がりが悪かったと振り返る。

「勝負はわからない、最後まであきらめるな」という監督の指示のもと(中堅)浜田が引き分け大将につないだ。

大将戦では市橋が気迫ある試合を見せ穴戸を追い詰め、合わせ技による一本勝ちで初代チャンピオンとなった。